

中心市街地での朝市開催で にぎわい再生を目指す



ここがポイント

中心市街地の歩道で日曜朝市を開催し、地産地消、観光振興、商店街活性化を図る。



賑わう “徳島わくわく日曜市”

【取り組みの背景】

徳島市中心市街地は、古くは新町川を運河にした藍商人の活躍により、地域の特産品の集散地として賑わっていた。しかし、現在は、空き店舗が目立ち、通行量も減少している。当時の中心部の賑いを取り戻すことを目的に、県内の生鮮産品、農産品、工芸品、郷土加工品等を販売し、『地産地消』、『観光資源開発』を図り、賑わいと活気のある街づくりをするため朝市を実施している。“地域活性化”という共通の目的で徳島県・徳島市も参画し、徳島県内では初めて（祭礼を除く）となる歩道上における商行為を伴ったイベント（朝市・日曜市）が可能となった。

【取り組みの概要・経過】

徳島市での大規模な朝市（日曜市）については、

以前から何度かの企画はあったが実現には至らなかつた。

平成19年、徳島商工会議所会頭に近藤宏章氏が就任してから、街路市開催の話が熱をおびてきた。翌年、朝市研究会が立ち上がり、徳島県、徳島市、地元『紺屋町共栄会』などの関係者を交えて検討に着手、事務局を徳島商工会議所とする実行委員会を組織し、開催にこぎつけた。

開催場所は、いくつかの候補の中から、比較的幅広の歩道と大型駐車場がある『紺屋町通り』の北側歩道とした。その後、道路使用に関する関係機関の同意も得られ、平成20年12月21日に第1回目の朝市（日曜市）が開催された。

この事業は、空洞化しつつある徳島市の中心市街地に新たなヒトの流れを創出し消費の活性化につなげようと、毎月1回、最終日曜日の午前8時から午後1時30分までの間、『地産地消』を掲げた朝市を開催するもの。安心・安全な地場農水産品を目玉とするため、出店品目の5割以上を地場産品とする決まりを設けた。41の出店者が50区画（1区画：1.8m×2.0m）に出店している。

来場者の駐車場は、会場の地下にある徳島市営駐車場を中心に3つの駐車場（総駐車可能台数：最大約370台）を用意した。朝市開催時間帯は、来場者・出店者は無料で駐車が出来るよう主催者が用意。

その他、イベントとして地場農水産品の良さを

知つてもらうためワンコイン500円で食べることができるお買い得な食のイベントを実施するなどして集客を図った。

市の愛称は、一般公募を行った結果、7歳の小学生の『徳島わくわく日曜市』に決まった。

この事業は、中小企業庁の中小商業活力向上支援事業費補助金を受けている。



行列ができた鱧入りの「とくしまバーガー」

【取り組みの効果】

第1回目の平成20年12月21日(日)、会場となった紺屋町北側歩道は午前8時のオープンから来訪者であふれ、閉店まで人波が絶えなかった。約3千3百人の来場者たちは、新鮮野菜・青果、地元の特産品等を買い物しながら路上で開催される街路市の雰囲気を満喫し、毎週の開催や規模の拡大を求める声も聞かれた。また、街路上では火気使用が好ましくないため、近隣のホテルが玄関前に屋台をして温かい料理と飲物を販売したり、地元紺屋町の商店も早朝から開店したり、両国本町、東新町の商店街からも市へ出店した店主もいたりするなど、自然発的に協力態勢ができてきた。その他、近隣の籠屋町、東新町等の商店街では、そば米汁の無料配布、もちつき等のイベントを開催するなど賑わいの創出に努めたこともあり、近隣商店街にも多数の人出となつた。

【今後の課題など】

将来的には店舗数・区画の拡張等、規模を拡大したり、近隣商店街で開催される他の催しと連携したり、開催頻度も月1回から毎週開催にするなどの構想を持っている。また、「日曜市に来たら楽しいことがある」と思ってもらえるように、好評である食のイベント等の企画を充実させたい。

また、徳島市内だけでなく県外客など、より広いエリアからも呼び込むための観光資源として、地域活性化を目指したいと意気込んでいる。

【紺屋町歩道における朝市・ 日曜市実行委員会】

所在地：徳島市西新町2-5

徳島商工会議所内

URL: <http://www.tokushimacci.or.jp/>

【この商店街にこの人あり】

徳島商工会議所会頭、近藤宏章さんは、地元徳島の強みは第一次産業だと認識し、そのてこ入れを唱える。その第一弾として、「徳島わくわく日曜市」を行政も巻き込んで実行した。次は、NHK朝ドラ「ウェルカム」とも連動しての観光資源化も念頭に入れている。

【うちの商店街、ここが自慢】

日曜朝市に隣接する籠屋町商店街には、中小企業庁の支援で整備した、子育てほっとスペース『すきっぷ』がある。ここでは、絵本・おもちゃ・授乳やおむつ替えコーナーがあるほか、専門のスタッフが子育てに関する相談に応じている。また、子育てに関する講習を実施したり、中学・高校・大学生などのボランティアの受入れも行っている。

高松南部の中心商店街からも 目が離せない

！ここがポイント

地元アーティスト、大学生たちがアート、ミュージックで街を盛り上げている。

【取り組みの背景】

高松市では、高松丸亀町商店街での再開発の取り組みが全国的に有名であるが、中心商店街の南部に位置する「高松常磐町商店街」、「南新町商店街」、「田町商店街」での新しい動きからも目が離せない。

1980年代、ターミナル駅のこととん瓦町駅から西に伸びる高松常磐町商店街（通称「トキワ街」）には、大型店の旧ダイエーと旧ジャスコがあり、映画館が周辺を含めて6館あるなど、若者を中心に高松市内でもっとも賑わいのある商店街だった。しかし、2004年までに両店舗が撤退し他の店舗もどんどん閉店して、現在は空き店舗率が4割近くとなりシャッターが目立つ。

このような中、まちづくりのメンバーや若いアーティストたちが、高松南部のシンボルとして「南を盛り上げよう！」と商店街、こととん、高松天満屋、香川大学などと連携・協力し、ソフト事業を中心としたまちづくりに取り組んでいる。

【取り組みの概要・経過】

□4町パティオの整備

トキワ街、南新町商店街、田町商店街の3商店街、及び亀井町自治会の4町の中心部はオープンスペースになっている。平成19年、ここにベンチや樹木を設置してコミュニティースペースを整備した。

現在は、アート系イベントが行われたり、カップルの待ち合わせ場所として賑わっている。商店街と地元自治会が協力して整備できたことも全国的に珍しい。



□おいでまい・阿讚ええもんや

周辺5町が高松市と合併した際に、旧町の产品を販売しようと始まった。交流の深い徳島県美馬市（旧脇町）の产品も扱うこととなり、この名前のお店になった。平成20年10月、トキワ街の空き店舗で営業が始まり、新鮮野菜、お総菜、民芸加工品などを販売している。ここでの野菜は新鮮と評判で、近所に住んでいる高齢者がこそって買いために来店し賑わいをみせている。

□香川大学やこととんとの連携

地元の香川大学は、トキワ街の空き店舗にサテライト型キャンパス『ミッドプラザ』を整備した。

ここで大学の講義やシニアを対象とした生涯学習講義などを行い、多世代交流型のまちづくりに取り組んでいる。



ナイトサロン（4町パティオで）

先行的に前述の4町パティオにおいて、まちづくりを討論するオープンキャンパス“ナイトサロン”を開催したところ、学生をはじめ、多くの参加者で賑わった。

また、合計8千人いる大学職員・学生がことでの発行する交通系カード“IruCaカード”に学生証機能を付与して携帯しており、このカードにはデポジット機能があり、商店街のお店で買い物ができるため、売上げ増加の効果も期待されている。

これらの事業は、経済産業省の戦略補助金で支援している。



□アート系イベントの実施

まちづくりメンバーたちが中心となり、3商店街やことでんなどと協力して開催。幼稚園児たちが大きいキャンバスに絵を描いて、それらを空き

店舗のシャッターに貼り付ける「まちゆうえんち」やパリのモンマルトルをまねて、アーティストたちが街に自分の作品を置いたり、似顔絵を描く『名もなき画家通り』などのイベントを開催。

【取り組みの効果】

イベントを通じて、個店の店主がアーティストたちと顔見知りになり、例えば、クリスマスの飾り付けで「どうしたらきれいに見えるかいな」と相談したら「イベントで使ったのぼりがあるからそれを持ってきてあげるよ」と飾り付けを手伝ってくれたりと新しい層との交流が進んでいる。

【今後の課題など】

南部3商店街では、多世代交流型の商店街を目指しており、現在は未整備の子育て支援施設の運営も検討している。

【高松常磐町商店街振興組合】

【高松南新町商店街振興組合】

【田町商店街振興組合】

所在地：香川県高松市

合計組合員：285名

※いずれの商店街も広域型商店街

【この商店街にこの人あり】

野澤道雄さん

(瓦町駅周辺まちづくり協議会 会長)

商業者、地権者、会議所、百貨店など高松南部の関係者をまとめ上げるとともに任意の協議会を立ち上げ、地権者とも個別に交渉するなど人柄により幅広いネットワーク構築に尽力している。

【うちの商店街、ここが自慢】

アーティストや学生など

若い人ががんばっている商店街

お年寄りからお子さんまで、 多世代が集まる商店街



ここがポイント

空き店舗を活用し、多世代が和気あいあいと交流できる賑わい空間を創出。

【取り組みの背景】

四国中央市川之江町（旧川之江市）は、愛媛県の東端に位置する。製紙業の盛んな町で毎年「紙まつり」が行われるなど、“紙のまち”として名高い。川之江栄町商店街は、JR駅や高校から近く地元住民が行き交う地域密着型の商店街であったが、郊外スーパーの進出、住民の高齢化などにより来街者が減少し、空き店舗も目立ってきた。

平成16年に周辺市町村が合併し、旧川之江市は四国中央市となった。そのときの合併記念事業のひとつとして、商店街が各地域の情報発信をする施設「みんなの広場 四国中央ドットコム」が開設された。



1階に設置されているレンタルボックス

二ティースペースと市民が情報発信や委託販売できるレンタルボックスが並び、2階は親子が集う子育てスペースとなっている。高齢者向け機能と子育て支援機能が合体して多世代が交流するのは全国的に珍しい。



「にこにこルーム」で本の読み聞かせ

□子育て施設の充実

中小企業庁の支援を受け、子育てスペース「にこにこルーム」の運営を始めた。現在は、利用者が増加し定員がいっぱいになってしまう日もある。隣県の徳島県や香川県からの利用者もあり、時には中高生ボランティアの参加もある。商店街にこれまで足を向けていなかった層の来街効果も出てきている。

□子育て支援マップ・シニアマップ

製紙業の工場が多いこの地域には、転勤で引っ

【取り組みの概要・経過】

□異色のコミュニティスポット

空き店舗を改装したこの施設は、1階にコミュ

越してくる家庭も多い。地元の母親だけでなく、そうした「転勤族」の母親が安心して子育てができるよう、「地域情報子育て支援マップ」を作成した。主婦層から情報をを集め、市内の託児所・病院・公園だけでなく、お得な情報なども掲載している。

また、高齢者が商店街を訪れ安全に町歩きできるよう「シニア支援マップ」を作成したところ、好評で来街者も増えてきた。



シニアパソコン教室

□アクティブシニアのクラブ・サークル

平成18年に始まったシニアパソコンクラブは高齢者に大好評で、複数クラスで常時10名以上の参加があり、定員を超えたくなり入会希望者に待つていただくことも珍しくない。会員どうしで教えあうなど、サークル的な雰囲気の動きも出てきた。また、他にも紙バンド手芸サークルなどのシニアメンバーが2階の子育てスペースでボランティアとして子供たちと関わるといった広がりも生まれている。

【取り組みの効果】

施設の中で高齢者、お母さん、子どもの多世代が自然に交流するようになり、高齢者の生きがいにもなっている。また、商店街に子連れのお母さんが目立つようになってきて、賑わい創出の効果が現れている。

【今後の課題など】

四国中央ドットコムへの来館者は定着してきたが、「点」から「線・ストリート」へと商店街内の回遊性向上に向けて、さらに2カ所の空き店舗を活用した拠点を整備した。今後は、NPO法人との協働により「ふれあい物産館」の開設も予定している。これらの拠点のみが賑わうのではなく、商店街全体に人通りを取り戻し、施設名「四国中央.com（ドットコム）」のとおり「どっと混む」ような商店街にしたいと計画している。

【川之江栄町商店街振興組合】

所在地：四国中央市川之江町 1814-5

会員数：41組合員

商店街の種類：近隣型商店街

URL <http://www.shikokuchuo.com/>

【この商店街にこの人あり】

高原 茂 副理事長は、本施設の発案から、運営にいたるまで一手に引き受けている。自らも得意なパソコンの技術で高齢者に親切・丁寧に教えており、参加者から好評を得ている。

子育てマップやシニアマップなど賑わいづくりの企画力にも優れており、この商店街の重要な担い手である。

【うちの商店街、ここが自慢】

商店街の中央部にアーケードに隣接して地域の加盟店で運営する無料の駐車場があり、来街者には非常に利便性が高い。そのおかげで、徳島県や香川県など遠方からの来訪者も多い。

商店街のカラーを打ち出した 「商店街統一販促活動」の推進と実現化!!

! ここがポイント

周辺商店街の地域特性に沿った商業機能の再構築と賑わい創出を目指し、学校・町内会・行政・関係団体等との連携はもとより、組合員である地元大型量販店との密な協力体制による販促活動を実践。



万々商店街振興組合

【取り組みの背景】

昭和44年の組合設立以来、高知市人口の外延化等により周辺商店街の中では売上高1・2位を争うまでに大きく発展。組合員数も設立当初の54名から平成6年には74名まで増加したものの、近年は厳しい経済情勢を背景に脱退や廃業等が相次ぎ、年々減少傾向にある。

一方、周辺部に大規模団地が出来たことにより、周辺人口は増加傾向にあり比較的車の交通量も多いといった明るい材料も見られる。また、組合員に地元大型量販店のサニーマート、TSUTAYA、ダイソーを擁し、各種イベントにおける相互連携・協力体制を築いており、現在も商店街のキャッチフレーズ“ふれあいと愛着のある商店街”を目指した活動を展開している。

こうした中、元気な商店街としての再生を図るべく、平成19年度高知県商店街振興組合連合会の助成事業(元気な商店街ビジョン策定支援事業)を活用し、商店街の特色を打ち出した活性化策や今後の方向性に関するビジョンを策定し、特に「商店街統

一販促活動」を積極的に推進していくこととなった。

【取り組みの概要・経過】

平成19年度は、当該助成事業によるビジョンの策定だけでなく、迷惑駐車が問題になっていた組合駐車場の2台分の駐車スペースに「憩いの場」を設け「商店街マップ掲載看板(万々商店街千客万来 万々歳まっぷ)」を設置した。また、学生にデザインを依頼し、商店街のイメージキャラクター「クマーマ」の制作も行った。

平成20年度は、商店街執行部のみならず専門家や行政関係者、町内会等を交えて定期的(月2回程度)に会合を開き、必要に応じ県・市・全振連の助成事業を活用しながら、商店街統一販促活動を始めビジョンに明記した活性化策の推進・実現化を図った。

これまでの具体的な取り組みとしては、平成20年7月16日よりお客様感謝デー「クマーマの日(毎月第1、3水曜日)」をスタートさせた。当日は各組合員店舗が一つずつ目玉商品やサービスを用意し、商店街一斉の売り出しを実施している。



◆クマーマの日のチラシ

そして、全盲のシンガーソングライター堀内佳氏に依頼し、商店街のイメージソング「クマーマと一緒に」の制作を行い、クマーマの着ぐるみも制作して販促活動や各種イベントにおいて効果的に活用している。

また、シーズンイベントの実施についても検討を進め、8月には12年ぶりとなる「土曜夜市(夏祭り)」を開催し、12月には

シーズンイベント第2弾として、商店街内を約2千個キャンドルとLEDのイルミネーションでライトアップする「キャンドルフェスタ in mama」を開催した。共に市民参加型のイベント事業となり、多くの集客で好評を博した。

さらに、年末にはサンマート中万々店の協力のもと、各組合員より総数333個の景品を出し合い「スタンプラリー」を実施した。それぞれ異なる3店舗で買い物し、各店のスタンプを集めると抽選で景品が当たる仕組みであり、応募総数も1,200通を上回るなど、初回としては大成功であった。

【取り組みの効果】

①地域特性に沿った商業機能の再構築

商店街の特色を打ち出した販促事業の実施により、組合員の販促に繋がることはもとより、地域特性に沿った商業機能の再構築及び賑わいある街づくりの創出に寄与した。

②商店街全体の話題性や付加価値化による知名度向上・イメージアップ

クマーマやイメージソングを、各種イベントや「よさこい祭り」などで上手く活用することにより、多くのマスコミに取り上げてもらい、まち全体のイメージアップが図られた。

③周辺住民や学校との連携体制の構築

事業推進にあたっては、会合に周辺町内会の方にも時折参加してもらいアドバイスをもらったほか、シーズンイベントの開催にあたっては周辺の学校に備品を借り受けるなど、これまでに無い新たな連携・協力体制を構築できた。

④組織の再活性化(※組合員数の増加)

年々組合員数が減少傾向にある中、特に販促活動において、組合員以外の企業にも一定の期間(お試し期間)無料での参加を呼びかけることにより、組合員数が大幅に増加した。(※本取り組み以前と比較し7名増加。36名→43名)

【今後の課題など】

クマーマの日の一斉売り出し並びにスタンプラリーについては、定期的に開催していく販促活動であり、シーズンイベントについてもこれらとの相乗効果を生み出すものであることから、一過性のもので終えることなく、地域に根付くよう今後も継続させていくことが重要である。

また、来年のNHK大河ドラマ「龍馬伝」の放映に伴い開催され

る「土佐・龍馬でい博」を意識し、龍馬の生きざまに影響を与えた「田中良助邸」を訪ねるツアーの企画など、商店街振興に観光振興を結びつける新たな取り組みが検討課題となっている。

来年度についても、「地域との共生協働」の意識を忘ることなく、より一層充実・強化した内容にて実施していく方針であるが、将来的に助成金が無くても独自開催できるよう、新たな財源確保策等についての検討も併せて行っていくことが求められる。

【万々商店街振興組合】

所在地：高知県高知市南万々28番地3

会員数：43名(平成21年3月末現在)

商店街の類型：近隣型商店街

URL(携帯)：<http://idomov3.netfarm.ne.jp/~bg012639/2/>

【この商店街にこの人あり】



理事長
丁野信二氏

当組合の役員構成は、下は30代から上は70代までと年齢も男女比もバラバラ。丁野理事長は、強力なリーダーシップと柔軟な発想力により、こうした個性的なメンバーを牽引し、取り組みの実現化を図っている。

【うちの商店街、ここが自慢】



万々商店街「千客万来 万々歳まつぶ」



商店街イメージキャラクター
『クマーマ』



スタンプラリーPOP

おかみさんの元気が 商店街を元気に



ここがポイント

商店街の垣根を超えて、おかみさんたちが結束して活動を展開

【取り組みの背景】

高知県四万十市は、室町時代に下向した一条氏が京都を懷かしんでつくった町で「土佐の小京都」として、いまだに独自文化が残っている。また、“日本最後の清流”で有名な四万十川の河口に位置し、雄大な自然も有している。

県都高知市から100km以上離れていることから、周辺市町村を含めてひとつの商圈を形成しており、四万十市はその中心となっている。最近は、郊外に大型店の進出が著しく、中心部にある商店街は少しづつ衰退し始めている。

このような中、“中心市街地活性化法に基づくまちづくりをしよう。については、その裏方部隊として、おかみさんの会が必要になってくる”との認識のもと、平成17年、四万十市商店街振興組合連合会の呼びかけで6商店街からなる女性部が発足した。メンバーはもちろん女性ばかり。

【取り組みの概要・経過】

□中小機構のアドバイザー制度を活用

平成18年から中小企業基盤整備機構のアドバイザー制度を活用し、江島康子先生（福岡市）を講師に招き月1回の勉強会を始めた。お店の関係で夜間の勉強会となつたが、これまで1回も欠かすことなく継続している。このなかで、メンバー

たちは啓発され、「単なる物まねではなく、四十オリジナルの企画を工夫しよう」と強いこだわりを持つようになってきた。



□玉姫様の小箱

勉強会のなかで、この地域らしい情報として発信できるものは何だろう?と、みんなで考えた結果、この地に嫁いできたお姫様、“玉姫様”の名前が挙がった。この名前を付けた小箱に商品とメッセージを入れて販売しようと「玉姫様の小箱」が生まれた。縦14センチ、高さ・横8センチの小さな赤い箱に、それぞれのお店の手づくりのおすすめ商品を詰めて、価格は買いややすい千円前後とした。ネーミングや箱の可愛らしさも手伝って、商店街のお楽しみ小箱として人気が出て、マスコミにも取り上げられた。

□美人のお守り

昔から、高知県西南部には美人が多いと評判で

あるが、中心部の一条神社境内に湧く井戸は「お化粧の井戸」と呼ばれ、女官たちはこの井戸を水鏡にしたという言い伝えがある。この井戸の水で清めた5円玉を包んで「美人のお守り」とし、会のシンボルにもして「玉姫様の小箱」に入れたところ、さらに売上げがアップした。



□手づくり「今月のお得情報」

個店のお買い得品の情報を手づくりのポスターに描いた情報掲示板を、商店街空き店舗前・銀行横・バス停待合室などに設置させていただいた。手書きの文字は暖かみがあり見た目も楽しく、「面白い！」と評判を呼び、この掲示板が購買意欲の増進につながっている。



【取り組みの効果】

勉強会を重ねて、明らかにメンバーの意識改革が進んだ。女性部のメンバーが次々と企画を発案し創意工夫を重ね、それをマスコミが取り上げることで元気の相乗効果が出てきた。

また、活動を通じてお店どうしのコラボレーションも生まれてきた。例えば、お弁当屋さんが

食器店の「マイ箸」を勧めたり、薬局がダイエツト関連グッズをスポーツ店や電器店に紹介したりするなど。

そして、なにより売上がアップすることで、お店の中でおかみさんの地位がちょっと上がり上がった。これは一番の効果かも。。。

【今後の課題など】

まちづくり会社や親組合とも連携して、事業効果を高めていこうとしている。

【四万十市商店街振興組合連合会 女性部】

所在地：高知県四万十市中村京町 1-2

会員数：29名

商店街の類型：地域型商店街

URL:

<http://www.40010tmo.com/rengoujoseibu.html>

【この商店街にこの人あり】

四万十市商店街振興組合連合会 女性部

通称「四万十玉姫の会」部会長

(平成21年1月現在)

木戸 和美さん

四万十市連女性部のエンジン！

事業企画から運営、後片付けまで、すべてに関わり、バイタリティ溢れる、スーパー マンです。

【うちの商店街、ここが自慢】



中村の見どころを手作りマップに